

一番特別な職業——8

この本の使い方——12

SECTION

1

子どもたちがやってくる前に
——体系立て、体系立て、体系立て……

15

1 教室を整え、準備する——16

家具——17

教材——19

2 手順を確立する——21

3 ルールを確立する——26

4 学級経営…マインドセットの準備——34

人間関係——34

具体的で高い期待——38

一貫性——42

一貫性を保ちながら、変わることもできる？——46

SECTION

2

5 子どもたちがルールを守るとき……あるいは守らないとき——48

真のゴールに集中する——57

6 授業の計画と指示——58

授業計画…1分単位で——58

指示…エンゲージメント(意欲的な状態)を重視——68

でもカリキュラムはどうなっている?——73

子どもたちがやってきた

——さあ、どうする?……75

7 手順を説明して練習する——76

8 学級経営を行う——84

自分自身を管理する——84

さりげない方向づけ——86

直接的な指導へ方向転換——90

ペナルティを受け入れる——94

個別のケーススタディ——100

「もしも、こうなったら」の状況——103

修復して立て直す——105

最後に——107

大人との協働

9

管理職と働く——110

事務的なサポート——111

10

同僚と働く——116

同僚のサポート——116

11

エンパワラー——120

エンパワラーと進んでいく——120

エンパワラーを見つける——121

他の人たちはどうなの？——124

12

修復を恐れないこと——子どもたち、同僚、校長——126

保護者——敵ではなく味方——132

知っている範囲で精一杯やっている——132

関係性が必要となる前に人間関係を築いておく——133

保護者に電話するとき、何て言えばいい？——135

内省し、磨きをかけ、成長しながら旅を続ける……………143

14 軌道修正……………144

微調整……………145

リセット・ボタン……………147

問題を特定する……………150

何を変えなければいけないかを決める……………151

新たなビジョンを導入する……………152

15 スポンジになろう……………158

吸い上げよう……………158

他の人たちを観察する……………158

ミーティングに参加する……………160

あなた自身も見られるように……………161

ノーと言うのを恐れない……………162

16 いつでも始まりはあなた……………166

自分の感覚を信頼する……………168

17 次は何？……………170

自信を持って2年目のスタートを切る……………172

参考文献……………174

著者・訳者紹介……………176

一番特別な職業

おめでとうございます！

この本を読んでいるのなら、あなたは自分の人生、キャリアに変化をもたらす選択をしたという事です。

考えてみてください。あなたは自分のスキルや能力を活かして、子どもたちが高みを目指すための力になろうと決めたのです。すごいことです！

子どもたちが教室に入ってくるときのワクワクする感覚を忘れることがあったら、思い出してください。あなたが、どれだけ多くの人たちに影響を与えているかを。毎日、あなたは変化をもたらします。あなたが教師を志したのはそういう理由で、それが現実のものとなっていますように。

ただ、次第に他の現実も見えてきて、さまざまな疑問が湧いてくることでしょう。

「子どもたちが話を聞かなくなったら、どうすればいい？」

「怒っている保護者にはどう対応すればいい？」

「どうすれば十分な睡眠時間を確保できるの？」

そして何より大事なことです、

「トイレに行く時間はどこにあるの?!」

毎日が、違う1日です。そして毎日が特別な日です。毎日がチャレンジです。でもあなたは、そのチャレンジに挑むことができます！

心に響く感動の瞬間もあれば、「どうしてこんなことになっちゃったんだろう」と思うときもあるでしょう。思わず泣きたくなる（実際に泣く）こともあるでしょう。教師になると決めたときから、わかっていたことです。もしかしたら、それが教師になろうと決めた理由かもしれません。

あなたは「ただの先生」になりたいわけではありません。「あ・の・先生」という存在を目指しています。影響を受けた教師の存在があるから、あなたも他の人に影響を与える教師になりたいと願っています。

翌年も、その次の年も、子どもたちが訪ねてきてくれるような教師です。

教室にいる子どもたちの人生に、変化をもたらす教師です。

いいことを教えてあげましょう。あなたはそういう教師になれます。あなた次第なのです。

あなたは、無限の可能性を秘めた子どもたちを受け持つことになります。その子たちは世界を変えることもできますし、最新のテクノロジーを発明することも、あるいは癌の治療法を見いだすかもしれません。

そんな子どもたちと過ごすのは楽しいものです。日々、驚かされることの連続です。その才能と賢さに、少しは自分も貢献していると自負してもいいくらいです。ぜひ、そうすべきです。

また、少し課題がある子どもたちも受け持つことでしょう。家庭環境かもしれませんし、スキルや態度かもしれません。原因はその子自身にあるのかもしれませんが、そうではないかもしれません。

こうした子どもたちと向き合うときには、忍耐力や能力が試されます。子どもたち全員に手を差し伸べられる教師は、一部の子どもたちだけに手を差し伸べられる教師とは、まったく違います。ときにはもどかしく感じることもあるかもしれませんが、「わかった!」という目の輝きや、大きな概念をつかんだときの笑顔、できると気づいてやる気を出したときの熱意に触れたとき、

「この職業を選んで本当によかった」と実感するはずです。

教師になって1年目に受け持つ子どもたちを、あなたは忘れることはありません。

他の子どもたちは記憶から薄れていくかもしれませんが、初めて受け持った子どもたちは、記憶にも心にもずっと残るものです。最初の教え子たちはどこか特別で、忘れがたいのです。そしてあなた自身も、忘れがたいと思われるような教師になっていかなくてもなりません。それが、『Your First Year』を書いた理由です。しっかりと心してください。これまで経験したことのない旅になるはずです。刺激的で、うきうきする旅です。想像したこともないけれど、求めているものがすべて詰まっている、そんな体験です。

教えることを選んでくれて、ありがとうございます。

変化をもたらすことを選んでくれて、ありがとうございます。

気にかけることを選んでくれたことに心から感謝します。

この本の使い方

『Your First Year』は、いく通りもの使い方をしていただけるようにデザインされています。大学生のうちに手にとって通読する、あるいは教師1年目に、手引きとして参照するのもいいでしょう。「学級開きの前に準備しておきたい」と思うことを網羅するガイドとしても、ぜひ活用いただきたいです。さらには何か困ったこと（あるいは危機！）があったときに、すぐにページを捲って解決法を見つけたら、思い出したりするのも役立ちます。

『Your First Year』は小学校、中学校、高校の教師を対象としていて、さまざまな状況での事例を紹介しています。できるだけ具体例を挙げて、期待値の設定の仕方、子どもたちや保護者とのコミュニケーションの取り方、教室の準備のやり方を正確に理解できるようにしました。

もちろん、皆さんはいろいろなバックグラウンドや経験をお持ちのことと思います。ずっと学校が好きで、ご両親も教師だったり、熟練した教師のもとで教育実習の指導を受けたり、あるいはこれから受ける、という人もいるでしょう。また、そうした機会には恵まれなかった人も。いずれにしても、**この本はあなたの教師1年目を成功に導きます。**

本書では学級経営を中心にした話題が、かなり多いと感じるかもしれませんが。新任の教師たち

によると、それが教師を始める前に一番不安なことであり、教師1年目で（ときには、その後何年も）難しいと感じることだからです。教えるに当たって皆が一番頭を悩ませている分野なので、新任の先生方をサポートすべく、内容を充実させるのが大切だと考えました。学級経営がうまくいっていても必ずしも成果を上げられるとは限りませんが、もし学級経営がうまくいっていないのなら、成果を上げるのはまず無理だと言ってもいいくらいです。

学内外の大人たちとの連携についても、ガイダンスを示しています。さまざまなかを共有し、学び合える同僚は、本当に心強い存在です。また、保護者たちとうまくコミュニケーションをとって、サポートしてもらえようにするのも大切なことです。でもときには、利己的な人と接しなければならぬ場面もあるでしょう。そのときにしっかりと対応できるようにしておく、教師1年目はより楽しい時間となります。

最後に、ぜひみなさんの声をお聞かせください！ ご自身の体験を私たちや他の人たちにシェアしたいと思われたら、ツイッターで#YourFirstYearのタグをつけて投稿してください。一緒に学び、笑い、成長していきましょう。では、本書をお楽しみください。

すばらしい教師1年目を！

1

教室を整え、準備する

教師は複雑な職業であり、優れた教師になるにはさまざまなアプローチが必要です。新任教師として、学校が始まる前後の数週間に集中すべきことは一つ。それは**学級経営**です。ワング、ハートル、ワルバーグは子どもの学びの達成度への影響に関する大規模なメタ分析の研究（1993年）を行いました。その結果、何よりも影響があるのは学級経営だということがわかっています。また、ほとんどの教師が一番ストレスを感じているのは、子どものしつけの問題だという調査結果も出ています。

教師1年目にはまだわからないこと、うまくいかないことが次々と出てくるでしょう。でも少なくとも体系立てや手順に関しては、そういうことのないようにしたいものです。

鍵を渡される教室がどのくらい広いか、近代的か、魅力的か、居心地がよいかなどは選べないかもしれませんが、その教室をどう使うかは、完全にあなた次第です。『教えるためのツール…規律、指示、動機 (Tools for Teaching: Discipline, Instruction, Motivation, 3rd Edition)』（2013年）の著者、フレッド・ジョーンズを含む多くの研究者や教育の専門家は、教室のしつらえ

の重要性を説いています。教室の準備には（あるいは前年度に使われたままになっているのを片づけるには）、考えなければならないことが二つあります。**家具と教材**です。

家具

家具に関しては動線や機能性、体系立てを考えなくてはなりません。基本的な学級経営の問題の多くは、子どもたちが教室に入ってくる前に、家具を機能的に配置することで対処できます（ジョーンズ、2013年）。まずは、以下の問いに対する答えを考えましょう。受け持つ子どもたちは何人ですか？机と椅子の数は足りませんか？初日から順調なスタートを切るには、教室をどのような配置にするのが効果的でしょうか。クラスの人数によって、しつらえは変わります。ここで、二人の先生が学級開きの前にどのように教室を準備したのか、具体例を見ていきましょう。

ジョージ先生は中学校の理科の教師で、教える生徒は1クラス30〜35人です。そして一番小さい教室の一つを割り当てられたので、スペースの使い方が限られます。また、これだけ大人数を受け持つのに少し緊張していて、クラスの方針や手順を生徒に説明するのにどう配置が一番

いいのか考えています。ジョージ先生の場合、まずは机を等間隔に整然と並べるのがよさそうです。机間の移動がスムーズですし、生徒同士のおしゃべりなども少なくて済みます。本当は机をグループに分けて、実験のときに作業しやすいようにしたいのですが、机の配置を変えるのはあとからいくらでもできると、わかっています。年度初めの目標は、体系立てを行い、秩序を確立することです。手順やルーティーンを導入した後に机をグループに動かせばいいのです。どんな場合でも体系立てたものを崩すほうが、逆よりも楽です。

グラント先生は小学校の教師で、25人の子どもたちを受け持っています。教室が広いため、空間の使い方を比較的自由に考えられます。クラス全体に指示をするときは、カーペットに座ってもらおうと思っているので、机はグループに分けて並べることにしました。25台の机を5台ずつのグループにして、黒板の前のスペースはカーペットを敷くために空け、教室のうしろの窓の横は学級文庫の場所に決めました。グラント先生の教室のほうが創造力を発揮できる余地があるものの、大切にしている点は同じです。それは動線、機能性、体系立てです。ジョージ先生のクラスと見た目が違うのは、教室や子どもたち、ニーズ、しっくりくる感じなどが違うからです。

教室のセッティングに関し、最後に、そしておそらく一番大事なのは、**常に子どもたち全体の様子を把握できるようにしておく**ことです。キャビネットに隠れている机があったり、読書スベ

ースがテクノロジーセンターのうしろにあったりしたら、何か問題が起きてもおかしくありません。教室の中に子どもたちが「隠れ得る」場所があるからです。もちろん、天使のような子どもたちばかりで、隠れるようなことはしないかもしれませんが、新任教師はこうしたリスクを避けるようにします。そのほうが、何か問題が起こってから対処するよりずっと楽です。

教材

教室の準備で次に大切なのは、教材です。必要なもの、定期的に利用するものはすぐに出せるようにしておきましょう。一方、あまり使わない教材は整理して片づけておき、必要なときには取り出せるようにしておきます。あなたと子どもたちが毎日使うものは何でしょう。鉛筆？ ノート？ 教科書？ それほど使用頻度が高くないけれど必要なものは何ですか？ ハサミ？ 計算機？ 算数用の積み木？ もしかしたら過去の指導書など、前任者の残っていた使い道わからない教材もあるかもしれません。そうしたものはどうすればいいのか、同僚や管理職に聞きましょう。もしとっておくべきものなら、邪魔にならない場所に保管しておきます。

小学校3年生を受け持っているスミス先生は、教室を準備するとき子どもたち一人ひとりに

携帯用のホワイトボードとクリップボードを準備し、椅子のポケットに入れておくようにしました。定期的に使おうと思っっているからです。そして、使用頻度の低そうなバインダーはキャビネットに片づけるようにしました。ノートも初めのうちはまったく使わないだろうと考え、使うタイミングが来たらすぐに出せるようにキャビネットに入れておきました。

ジェンキンス先生は高校の英語の教師で、やはり教材の置き場所についてはよく考えています。ほとんどの生徒が初日にはノートを持参するだろうと思いましたが、念のため自分のそばにも多めに準備しておきました。また、机の上には削った鉛筆を入れたコップを置き、忘れた生徒が使えるようにしました。授業のあとに回収できるよう、貸し出しシートも横に準備しました。窓の下に設置したキャビネットにはクラス毎に分けて教科書を置き、効率よく配布できるようにしておきました。

子どもたちが教室にやって来る前にできるだけ準備をしておけば、学校が始まったときにうまくいく確率が高まります。まずは家具と教材から手をつけるといいでしょう。準備をしておけば、一番大切なことに十分に時間を充てることができます。それはもちろん、子どもたちに教えることです。

手順を確立する

教室を整えて1年の準備をすると同時に、子どもたちに期待すること、手順についてもじっくり考えなくてはなりません。あなたと子どもたちが、クラスを滞りなく円滑に「運営」していくための基本ルーティーンです。

研究によると手順は、予防的で効率のいい学級経営の重要な要素で、子どもたちの学びや行動に影響を及ぼす可能性があることがわかっています（マルツァーノ他、2005年）。

手順について積極的にしっかりと考えることで、子どもたちの状態やクラス全体の雰囲気は大きく変わってきます。

きちんとした手順があれば、問題行動は起こりにくく、穏やかで建設的な雰囲気になるでしょう。

以下に挙げたのは、担当する学年にかかわらず考えておくべき、手順の例です。

■鉛筆…子どもたちが使いたいとき、どうしますか？鉛筆を削るにはどうすればいいですか？
 忘れた場合はどうすればいいでしょう？消しゴムが必要なときはどうしますか？